



アムステルダム・ベヘインホフ英語改革派教会

見学ガイド

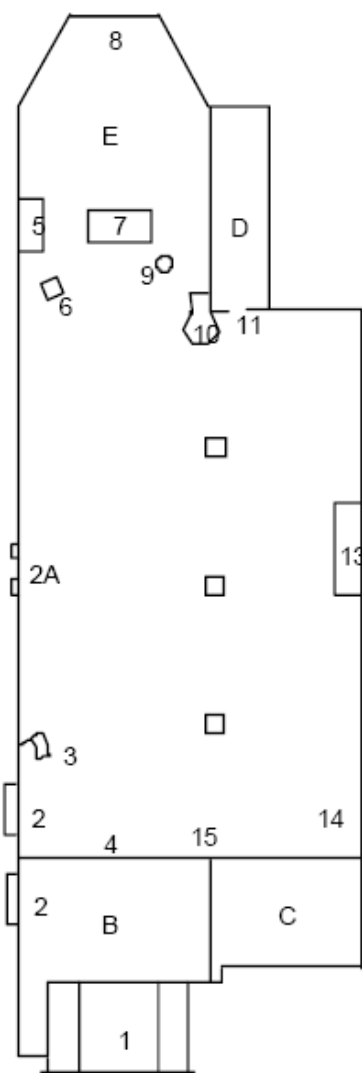
“明日の朝、僕は英語教会に行こう。静かなベヘインホフの夕べに、いばらの垣根の中、平和を湛えて座しているあの教会へ。In loco isto dabo pacem: この地に平和を与える、と主は言われる。アーメン、かくあれかし。”

フィンセント・ファン・ゴッホ

- 1 ポーチ (B) に入ると、右手のドアが小会 (役員会) 会議室 (C) へと続いています。(この部屋は見学者に公開されていません。)
- 2 教会に入ったら、ゴシック様式の魅力的な窓が二つあるのに御注目ください。一つはポーチ内に、もう一つは礼拝堂に入ってすぐのところにあります。どちらも1975年の修復の際に復活したものです。その先に2つ小さな窓 (2A) があります。説教壇がこの間に置かれていた時は、この窓から説教壇に光があたるようになっていました。
- 3 会堂内にはいくつかの旗がかけられています。一つ目はスコットランド王旗、二つ目は16世紀にスペインからの独立を戦った戦争でのスコットランド連隊の一つ (マッケイ隊) の軍旗レプリカ。その他は、オランダ、オランダ王室オレンジ家、英国、スコットランド、およびカナダの旗です。
- 4 内陣 (E) まで進んだら後ろを振り返ってください。礼拝堂後部に18世紀にジェイコブ・ハルストマンが作ったオルガンケースが見えます。1999年に復興されたものです。オルガンも新しいミレニウムを迎える年にザンダムのフレントロップが修復したもので、18世紀にクリスティアン・ミューラーが製作したオルガンの原図に沿っています。
- 5&6 同じくフレントロップの手になる小さなポジティブオルガンの前には、4人の福音書記者の象徴を彫った聖書朗読台が置かれています。ニコ・オンケンハウトの1977年の作品です。
- 7 聖餐桌にはこの教会にある最も古い聖書の一つである、1763年発行の聖書が置いてあります。
- 8 内陣の奥に、この教会に唯一のステンドグラスがあります。米国のエドワード・ボク氏が1920年に、ピリグラム・ファーザーズがライデンから新世界に旅立ってから300年の記念として奉献したものです。ファーザーズの多くはかつてアムステルダムに住んでいました。
- 9 説教壇への階段の傍らには洗礼盤があります。
- 10 説教壇はピエトウ・モンドリアンがデザインし、エデマ・ファン・デル・チュックが彫った板で装われています。これは、1898年のウィルヘルミナ女王即位を記念したものです。聖書は、上質の真ちゅうでできた聖書朗読台に支えられ机の上に置かれています。この台は、1689年にオレンジ公ウィリアム3世とその妻メアリー・ステュワートが大英帝国の共同統治

者として招かれた際に、教会へ寄贈したものです。

- 11 説教壇の背後の壁にはケルト十字架がついています。当教会の水曜オランダ語礼拝を起こすのに貢献したアレダグ・ケルク氏による寄贈です。
- 12 説教壇の右手のドアは、執事室 (D) の入口です。部屋の壁面には、執事として教会に仕えた人たちの名が掲げられています。礼拝堂の壁にもあります。
- 13 教会の南側の壁には、市長用のベンチがあります。説教台が北側にあった時代 (1607年—1912年) はその正面でした。
- 14 更に進むと、隅の戸棚の傍らに、死神の鎌が墓碑の板の上に置かれています。1818年まで、ベギン会修道女はここに埋葬されました。他にも、バロック時代の作曲家ロカテッリなど、小会 (役員会) から埋葬権を購入した人たちが埋葬されています。
- 15 礼拝堂から出る際に後部壁の左側を見ると、1607年2月5日にジョン・パケットが行った最初の説教の記録が、複製して額に入れて展示してあります。



もっと詳しく知りたい方へ

豊かな歴史をより詳細に記した The English Reformed Church in the Begijnhof, its Setting and History (ベヘインホフ英語改革派教会 その背景と歴史) という本を当教会で販売しております。ご参照ください。

“この壁の中では、誰もよそ者であってはならない。”

見学が終わりましたら、このガイドを元の位置にお戻しく下さいませ。

国境を越えて信徒が集う家 歴史ある民

英語改革派教会は、アムステルダムの地において英語で礼拝することを望む多くの人の家です。英国やオランダ、カナダ、アメリカ、アフリカ諸国や日本から来た長老派の信徒たちに加え、日曜朝の礼拝には多くの他教派の人たちが参加しています。最近ある礼拝の出席者を調べたら、25の異なる国籍をもつ、20以上の教派出身の人たちが共に礼拝していました。

私たちは多様な人からなる共同体です。難民、プロフェッショナルなビジネスマン、音楽家、法律家、主婦、銀行員、学生など、ありとあらゆる人たちが礼拝に集い、互いに助け合っています。一生この地で過ごす人もいれば、仕事や留学でここへ来た人もいます。

私たちは、オランダ国外で「国境なき医師団」の働きをしている教会員たちともつながりを持っています。マラウィのムランジェ・ミッション病院の支援募金をしています。

礼拝においでください

日曜朝10時30分から始まる礼拝においでください。どなたでも大歓迎です。礼拝はすべて英語で行います。こどもたちには年齢に応じて、託児所、日曜学校、ジュニアチャーチがありますので、家族全員で教会に来ることができます。礼拝後には、訪問者の方々と教会員のためのコーヒーアワーがあります。

聖餐式は、毎月最初の日曜日と、聖週（受難週）の木曜日とイースターの礼拝に行います。また、聖週（受難週）とクリスマスの時期には特別な礼拝を持ちます。それらの礼拝と、（7月～9月を除く）毎月の第二日曜の礼拝では、聖歌隊が賛美を導きます。

私たちは、1607年以来、第二次大戦中のドイツ占領時代の僅かな期間を除いてはずっと、アムステルダムの中心で英語礼拝を守り続け、長年にわたり豊かな教会を形成してきました。

英語改革派教会は、オランダ改革派教会のもとで設立され、途切れることなくイングランドとスコットランドの教職者を擁してきました。18世紀の半ばにスコットランドとの関係を築き、それ以降は教職者はいつもスコットランドから来ています。

現在、本教会はスコットランド教会ヨーロッパ中会（プレスビテリ）の正式な一員です。ヨーロッパ中会の年二回の会議には、12のヨーロッパの教会から代表が出席します。また、オランダ改革派教会のアムステルダム中会（クラシス）にも、一名の長老を代表として送っています。

私たちは成長を続けている教会であり、およそ400人の会員がおります。そして、アムステルダムの、そしてキリスト教世界の国際的な性格をこれからも反映していこうとしています。教会を率いていく小会は通常12人の執事と長老によって構成されますが、その顔ぶれは年齢や背景の幅広さをよく表しています。



ベヘインホフの歴史を刻む教会

ベヘインホフに最初に建てられた教会は、1419年に奉献され、ベギン会という女子信徒修道会の礼拝場所として用いられました。1421年の大火により、ベヘインホフ地区のほぼ全域とアムステルダムの主要部が燃えた際に、その木造の教会も焼失してしまいました。

15世紀の終わりに、ベヘインホフ地区と礼拝堂は煉瓦と石で再建されました。宗教改革期には、市の指導者たちが改革派の礼拝以外を禁止したので、教会は閉鎖されていました。

しばらくの期間、教会堂は、貯蔵庫と洗い場として以外は使われませんでした。アムステルダムの英語を話すキリスト者たちが礼拝の場所を求めて嘆願した時、市の指導者たちはベヘインホフ地区の不要な建物を彼らに与えることを決議しました。最初の礼拝が行われたのは1607年2月のことです。

建物は17世紀後半になって増築されました。1812年には正式に教会の財産となりました。1912年にレイアウトが変更され、1970年代に修復がなされました。

その後さらに、基礎への大規模な修復工事と、教会内部の改装が2005年の夏から秋にかけて行われました。現在当教会では、この大規模修復工事の費用返済のために、建築募金へのご寄付を呼びかけております。

さらに詳しい情報はこちらへ

Website: www.ercadam.nl

Minister: Reverend John Cowie
(ジョン コウイー 牧師)

JW Brouwersstraat 9,
1071 LH Amsterdam

Tel: 020 672 2288
オランダ国番号 31